遠距離恋愛中の彼女に会えなくなったワケ
スー
スー
むにゃっ

もうすぐ大学生かー

大学生活はお互い離れて
過ごすと思うと寂しくなるね…

うん、でも二人で
決めたことだから…

それに離れるのは大学生のとき
だけだから、その後は一緒に…

うん、分かってるよ
それまで頑張るから

うん、それに会えなくなる
わけじゃないんだから
たまには会いに来てね

うん、必ず

ぎゅっ

ふふ、それじゃ元気でね

大学生になった私、
春樹君とのことを思い出しながら
一人暮らしを送る日々、

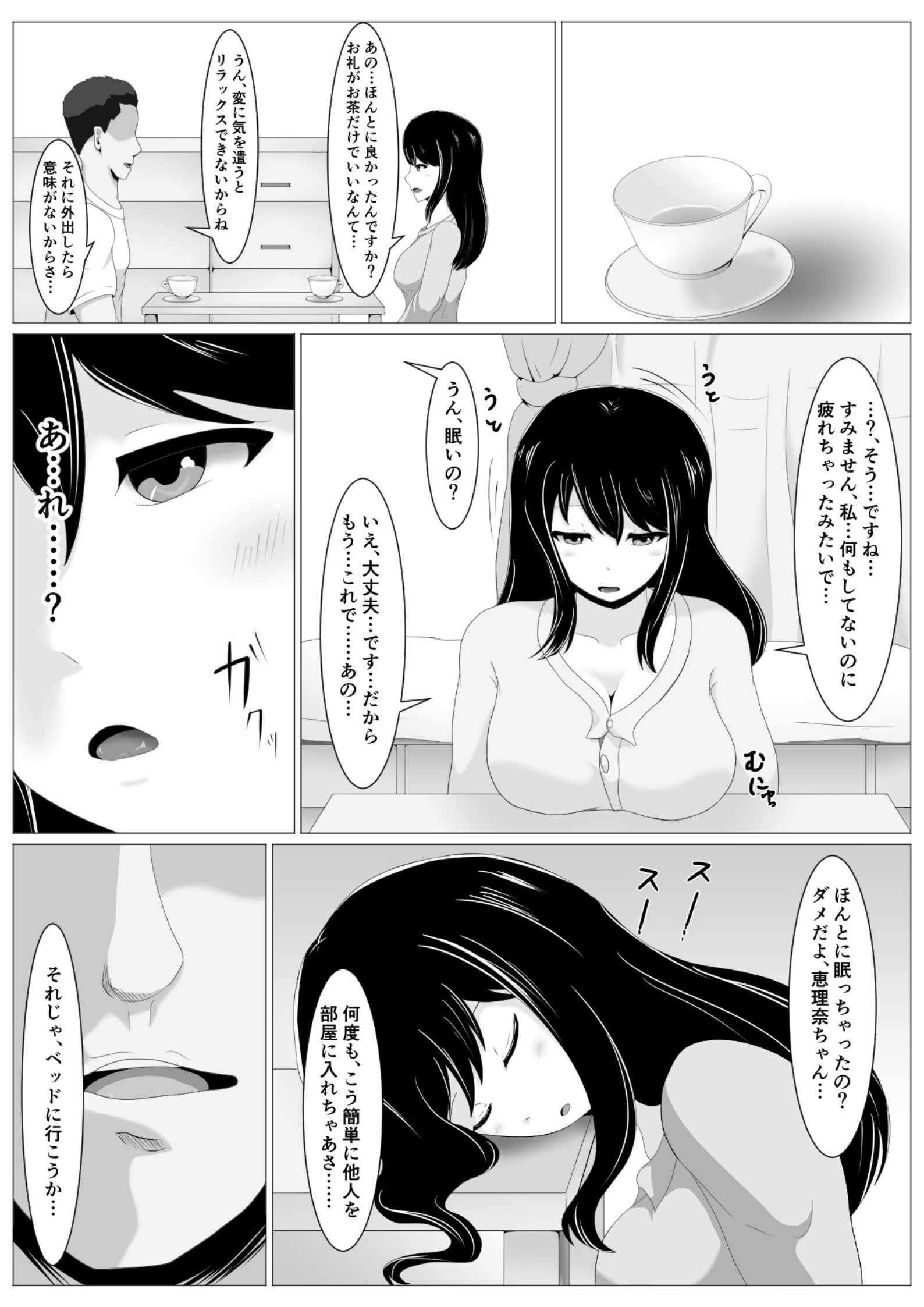
悩みの一つでもある
家具の組み立ても、お隣さんが
手伝ってくれてなんとかなりました

最初は遠慮したけど是非手伝わせて
ほしいと強く押されたので

断るのも悪いかなと思い、
甘えてしまいました

それに今回で最後だと思うから

何かお礼もしなくちゃ


あの…ほんとに良かったんですか？お礼がお茶だけでいいなんて…
うん、変に気を遣うとリラックスできないからね
それに外出したら意味がないからさ…
…？、そう…ですね…すみません、私…何もしてないのに疲れちゃったみたいで…
うと
うん、眠いの？
いえ、大丈夫…です…だからもう…これで……あの…
むにゃ
あ…れ……？
ガクッ
ほんとに眠っちゃったの？ダメだよ、恵理奈ちゃん…
スー
スー
何度も、こう簡単に他人を部屋に入れちゃあさ……
それじゃ、ベッドに行こうか…

全く、可愛い顔して
なんてエロい身体してんだ

この時が来るまで
どれだけ我慢したか…

スー

スー

柔らけぇ…
しかしすげぇ乳だな

こんなの犯してくださいって
言ってるようなもんだろ

ぷるっ

むにゃっ

ズズーッ

ちゅるっ

ちゅるるっ

おっぱい…うまっ…

ぷはぁっ

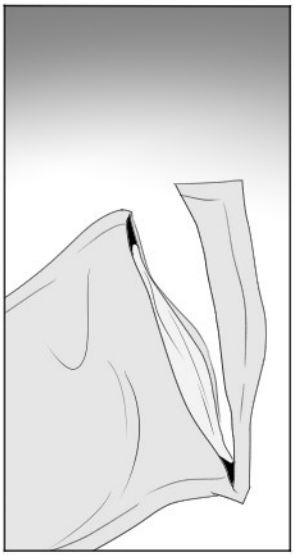
そろそろ
こっちもいただくか

ガシッ

よっと、これはあまり使ってなさそうだな
グイッ

よくほぐさないとな
ピクッ
ピクッ
クチュ
クチュ
すげぇ指に絡みついてくるっ

舐める度にメスの匂いプンプンさせて……
ぢゅっ
ぢゅる
クチュ
クチュ
いやらしいマンコだな
ピクッ
あっ
んっ
ビクッ
濡れて感度も良くなってきたしそろそろ…



あぁ～ダメだ我慢出来ねぇっ
グイ
グイ
挿れるよ、恵理奈ちゃんっ

ギュッ
ギュッ
おぉ…おっ…
ズプ

おぉ、恵理奈ちゃんの膣内っいい具合に締まって…

パン
パン
パン
パン
パン

あぁ～気持ちいいっ

…少し強引だったがここまでくればあとは流れでなんとかなるだろ

あっ
あっ
んっ
ぷるっ
はっ
はっ

このエロい身体っ

はっ
はっ
あっ

まだまだ堪能させてもらうよっ

ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ

んっ
あっ
あっ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ

もうそろそろ起きるはずなんだが…

パチッ

パチッ

パチッ

パチッ

パチッ

こっちももう少しでイきそうだし起こすか

あっ

あっ

はぁっ

はっ

あっ

睡眠薬が効きすぎたか？

恵理奈ちゃんっ起きてっ

パチッ

パチッ

パチッ

恵理奈ちゃんの身体っ犯されてるよっ

ヌチュッ

ヌチュッ

ビクッ

恵理奈ちゃんっ起きてっ

あれ…私……いつの間に寝て…

きゃっ
えっ!?
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
恵理奈ちゃんが何度も俺のこと部屋に誘ってくるから悪いんだよ？
ちっ違いますっ…
じゃあ責任としてセフレになってよっ
じゃないと中出ししちゃうよっ？
あっ
やっ
はぁっ
あっ
ギュッ
そんなっ勝手なっ…

くっ、イクッ…
うそ…中に出てるの…？
ビュルッビュッビュッ
ゾク
ゾク
あぁ～気持ちいいっもう少しで終わるから…
おぉっ
あっ
あぁっ
はっ
はぁっ
そんな…
ドクドクドク

私の日常は変わってしまった…
無理矢理言わされた約束
でも守るしかなかった…
んっ
んっ
んっ
んっ
もし断ったらと思うと…
もっと舌を使って
吸うように
そうそう、いいよ
あぁ〜気持ちいいっ
んっ
んっ
んっ
ぢゅる
ぢゅる
ぢゅる
ぢゅる
女の顔になってきたね
ぷはぁっ
ビク
ビク
はーっ
はーっ
じゃあその立派な
おっぱいでも
気持ち良くして
もらおうかな
ムチ
ムチ
そう、包み込むように
ギュッと挟んで動かしてっ
おぉ…もっと
刺激するように
激しくしていいよっ
はっ
はっ
たぷっ
たぱっ
たぱっ
たぱんっ

こっち見つめて射精を促すようにっ
あぁ～イきそうっ
そのまま乳圧かけながらっ
はっ
はっ
たぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
くっイクよっ
ぎゅっ
ぎゅっ
イクッ!!
きゃあっ
おおぉ…搾り取られるっ
ぎゅ～～っ

こっちも準備できてるね

パイズリで興奮しちゃったかな？

ビクッ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

挿れるよっ

グリ

グリ

オラッ

ズンッ

あっ

セフレにされた私は部屋に呼び出されては抱かれる日々が続く……

彼の性欲はすごくてプライベートは暇があればセックスをしていた…

あっ

あっ

はっ

はぁっ

ぷるっ

ぷるっ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

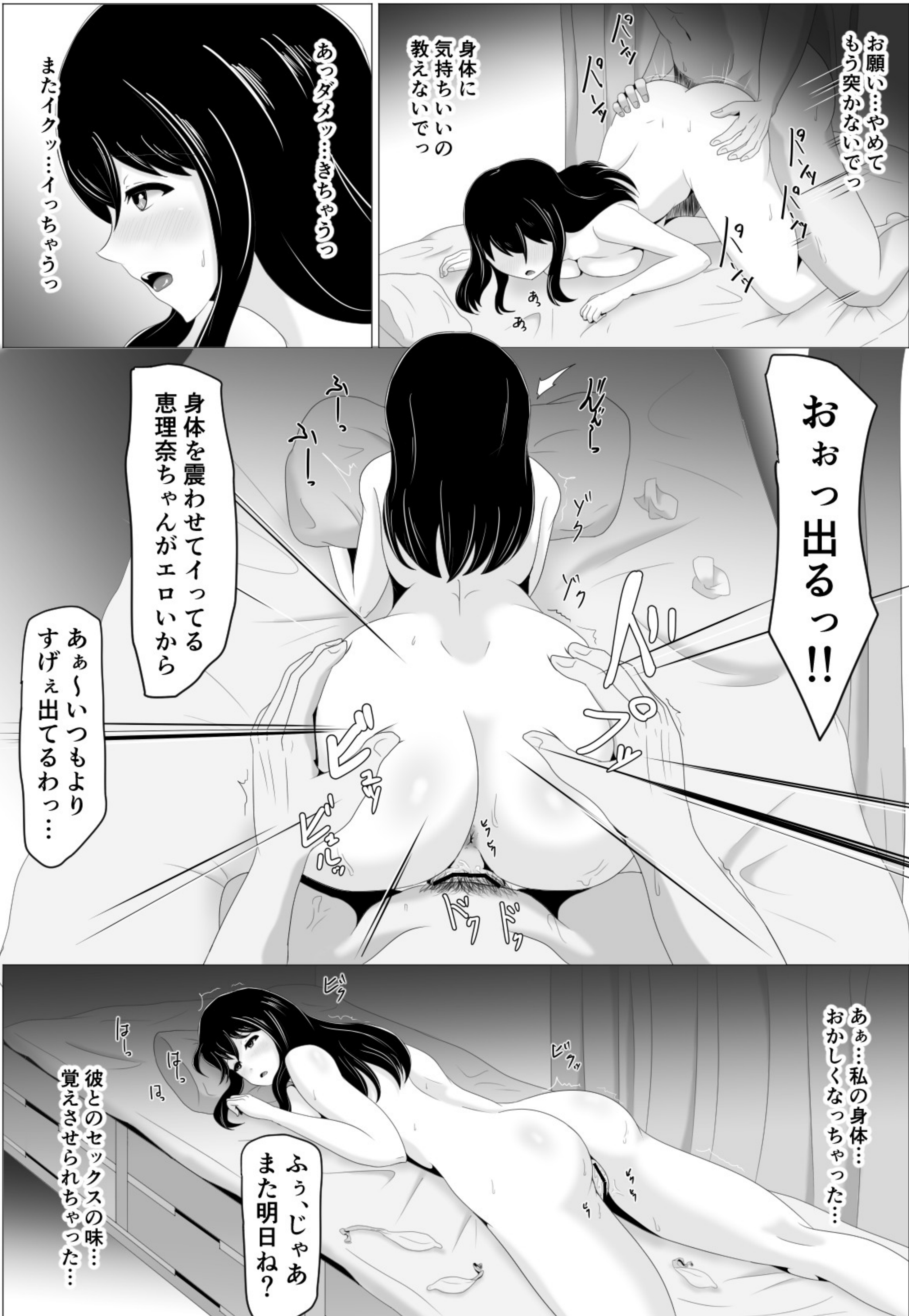
パンッ

パンッ

ヌプッ

ズプッ

ほら、恵理奈ちゃん身体の相性良いからっ
すごい気持ちいいでしょっ？
あっ…そんなことっ…
ほら、素直にならなきゃっもうイきそうでしょ？
くっ俺もイクッ…
ヌップ
ヌップ
ヌプッ
ヌプッ
ゾク
ゾク
あっ
はぁっ
あぁ
んんっ
ビュュッ
ビュッ
くっおぉ…
ドクドク
ビクビク
あぁ私…好きじゃない人とのセックスで…
イっちゃった…
ふーっ
ふーっ
まだ付き合ってもらうよっ
え…あっ…



お願い…やめて もう突かないでっ
身体に気持ちいいの教えないでっ
パンッ パンッ パンッ
あっダメッ…きちゃうっ
またイクッ…イっちゃうっ
おぉっ出るっ!!
ブリュ
ブピュッ
ビュッ
ドクドク
身体を震わせてイってる恵理奈ちゃんがエロいから
あぁ～いつもよりすげぇ出てるわっ…
あぁ…私の身体…おかしくなっちゃった…
ふぅ、じゃあまた明日ね?
彼とのセックスの味…覚えさせられちゃった…

数日後、春樹君が遊びに来てくれた

当然私の悩みは話せないけど…

久しぶりに春樹君に会えて嬉しかった

心が弾んで悩みなんて忘れられる……

忘れたかったのに…

ピンポーン

あっ、ごめんねちょっと待っててね

ガチャ、、、

ごめんね、春樹君…

ん？どうしたの？何かあったの？

急用が出来ちゃって…

すぐ帰って来るから…だから…

ぎゅっ

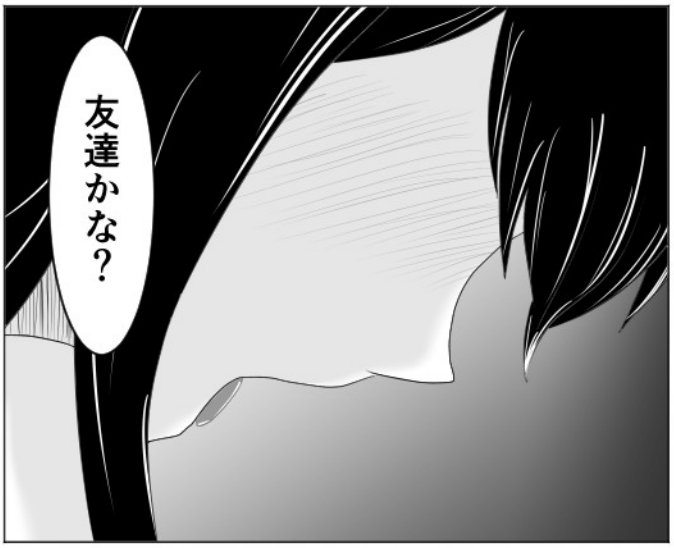
シャワー浴びて待っててくれる？

ドキッ

ボッ

う、うん…

むにゅっ


友達かな？

ふぅ、なんか忙しそうだったけど、無理させちゃったかな…
そういえば急用って何だったんだろ？
誰か来てたみたいだけど…

ほっ
ほっ
ほっ
ほっ
パンパン
パンパン
パンパン
パンパン
パンパン
ぷるっ
あっ
んっ

彼氏くん来てるのにいいの？
あなたがっ…来ないと彼にセフレとして紹介するって…だからっ…
あっ
ほっ
ほっ
彼氏思いだねぇ ほんとは裏でエッチなことしてるいけない子なのにね…
っ…

この向こうに春樹君が…
ごめんね…
もうすぐ帰れるから…
あと少しだけ待ってて…
はぁっ
はぁっ
はっ
じゃあ後は彼氏にイかせてもらいなよ
えっ!?
イきそうでしょ?
でもダメだよっ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
おっイクッ!!
ビュッ
ビュ
ビュ～～ッ
ビュルルルッ
ビクッ
ブル
そんな…あと少しでイけたのにっ…
あっ
あぁっ
ブル
ふぅ、じゃあ…
彼氏と楽しんできてね
ビク
ビク
べちゃぁ～
どろ～

あの人とのセックスが早く済んで良かったと思う気持ちとは裏腹に

ごめんね春樹君、待たせちゃって…

いつものようにイかせてもらえなかった私の身体は疼いて仕方がなかった…

大丈夫だよ恵理奈…

んっ…

恵理奈っ

ガッ

はぁっ

はっ

きゃっ

ごめん、何故か今日の恵理奈っ妙に色気があって我慢出来ないっ

グィ

グィッ

うん、いいよ…そのまま挿れて…私は大丈夫だからっ

ピクッ

んっ…

恵理奈の膣内っ久しぶりだからっ
ズンッ
ズンッ
ズプッ
ズッ
気持ち良すぎてもう出ちゃうっ
はっ
はっ
はっ
あっ
うん、きてっ膣内にいっぱい出してっ

ビュッ ビュルッ
恵理奈っ!!
ゾク
ゾク
ギュッ
ドク
ドク
ドク
あっ
んっ
あっ
はっ
あぁ…春樹君の熱いの…私の膣内ですごく感じるっ…♥

ごめん恵理奈、一人でイっちゃって…
はーっ
はーっ
ううん、私もすごく幸せだったよ…♥

恵理奈…
んっ…♥

春樹君との時間は夢のような心地よささえ感じていて…

じゃあね

私はすごく幸せな気持ちだった…

ぎゅっ

でも…

私の身体は満足していなかった…大好きな春樹君とのエッチなのにイけなかった……

忘れていたのに…一人になるとすぐにあの人との激しいセックスを思い出して身体が疼いてしまう……

あぁ…こんなにもいやらしい女になってしまうなんて…

ごめんね、春樹君…

で、どうだった？
彼氏とのセックスは…
ちゃんと気持ち良かった？

はい…良かったです…

ふーん、じゃあおまんこ
イかせてもらえたんだ

こんなふうに…

ビクッ
んっ
あっ
もにゃ
もにゃ
クチュッ
クチュ
クチュッ
クチュ
クチュッ
クチュ
クチュッ
クチュ
ビクッ

ビクッ

そんな顔して…ほんとは
満足出来なかったんでしょ？

ち、違いますっ…

恵理奈…俺の女になれっ
ズイッ
そうすれば毎日乱れまくっていいんだぞっ
そんなっダメです…私には彼氏が…春樹君が好きなんですっ…
だから…
んん!?
ちゅっ
キスは…春樹君としかダメなのに…
ほらっもっと舌絡めてっ…
ダメッこんなキス…んっ…ダメなのにっ…
んっ
んっ
んっ
はっ
んんっ
んっ
はぁっ
ぷはぁっ
はっ
はぁっ

どう？彼女になりたくなった？
ダメッ…です…
そんな蕩けた顔で言われてもね…
はぁーっ
はしっ
はしっ

ビクッ
仕方ない…身体に直接頼むか
えっ…あのっゴムっ…
グリ
グリ

あっ生はダメッ…春樹君以外はっ…抜いてくださいっ
なんだ、彼氏に生させてんじゃんなら問題ないでしょっ
あっ
あぁっ
やっダメッ
そんなっ…
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
あのっ…ゴム付けてならいいですからっ…生はっ…
あ～無理無理一度生ハメ味わったらゴムなんかに戻れないって

ほら、生ハメでいつもより大きくなってる俺のチンポっ
気持ちいいでしょっ
何も言えなくなるくらい喘いじゃって
それとも俺のこと受け入れてくれる気になった？
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
あっ
ああっ
はあっ
ああっ
はっ
はっ

今度はあの時みたいにゴム付けてないからっ
ギシッ
ギシッ
本気で中出しするからなっ
ズンッ
ズンッ
ダメとか言って俺のこと離さないようにしっかりしがみついてるじゃんっ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
なら望み通り中出しされてイけっ
中っ…だめぇ…
やあっ
ああっ
はあっ
あっ
ギシッ

オラッイけっ
恵理奈ぁっ
ビュッ
ビュッ
ビュルルッ
ゾク
ゾク
あぁ〜すげぇ…
やっぱ生中出し
やっべぇわ〜
あぁっ
あっ
はっ
はっ
あぁっ
あっ
ドプ
ドプ
ドプ
あぁっ…私の
身体…イってるっ…
こんなのっ…
だめぇ…
キュン
キュン
何回もイかされて…
中出しまでされたのに…
身体が彼を受け入れてしまった…
ゾク
ゾク
はーっ
はぁーっ
はぁーっ
ふぅ、すげぇ出た
どろー
ブビュッ
あぁ…もうダメみたい私…

なぁ恵理奈…
もう素直になれよ

会えない彼氏くん
なんか忘れてさ…
俺ならいつでも
抱いてやるから

…俺の女になる決心
ついたらおいで

それまではセックス
はいいからさ…
じゃあ待ってるよ

ビク
ビク
はーっ
はーっ
ブピッ
ポト
ポト

私…どうしたらいいか…
分からないよ……

不安を残したままだけど
身体は勝手に動いていた…

あの、私…

分かってるよ

ソワ

ソワ

あぁ…何度も私を抱いた
この逞しくて男らしい身体…

いつの間にか心地よさすら感じて
しまうまでに私は変わっていた…

グイッ

恵理奈…

あっ…

俺が何もかも
忘れさせてやるよ…

はっ

はっ

…はい

んっ…

彼の言う通り、何もかも
忘れてセックスのことしか
頭になかった…

すごかった…気持ち良すぎて
何回中出しされたか分からない
私も何度絶頂したかも覚えてない…

ただ私の不安は
彼の腕の中に

吸い込まれるように
溶けていった……

あぁ…だめ……
突かれる度に
私の気持ちが
塗り替えられてゆく…
ズチュッ
ヌチュッ
ズプッ
ズプッ
キュン
キュン
あぁ♡
あぁ♡

また出すぞっ
恵理奈っ
俺の精子味わいながらっ
中出しされながら
イけっ恵理奈ぁっ
はいっまたイクッ
イっちゃうっ♥
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ゾク
ゾク
ぷる
ぷる
あぁ♡
イッ♡
あぁ♡
あぁ♡

孕めっ恵理奈ぁっ
ドビュッ
ビュルッ
ビュッ
ビュッ
ドクドクドクッ
おぉ…すげぇ残りの精子全部搾り取られるっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
イッくー♡
ビクッ
あ〜♡あ〜〜♡
ぎゅっ
あぁ♡
ゾク
ゾク
ゾク
はぁ♡
はー♡
はぁ♡
ふぅ、これからはセフレじゃなく俺の女として
毎日孕ませセックスしような、恵理奈
カク
カク
あぁ…心までもが…
でも…もう…

ん♡
あぁ♡
あ♡
はぁ♡
パン
パン
パン
パン
パン
電話、鳴ってるよ？
彼じゃない？
ブブッ
ブブブー
後で…出ます…
出てもいいよ、出たら俺も中出しするのやめるからなっ
えっ、そんな…
あ♡
やっ♡
ぎゅっ
俺の女なんだろ？
…はい、もう電話しません…だから、中にください…
よし、恵理奈っイクぞっ
ギシ
ギシッ
ギシッ
ギシ
ギシッ
ギシ

イクッ
ドビューッ
ドプッ
ビュクッ
ビュク
おお…チンポ
溶けそう…
イクッ♡
イッ～♡
あ♡
あぁ～俺のモノになった女に
中出しするのたまんねぇわ～
ビク
プピュッ
ビクッ
ごめんね、春樹君…
私もう…
あなたの女に戻れないの…
は～♡
は～♡
恵理奈…
ぎゅ～っ
…んっ♥

自分の部屋に誘って…男の人の上で腰を振るようないやらしい女に変わってしまったのは自分でも分かってる…
あぁ♡
これっいい♡
おくっあたるの♡
すきっ♡
あぁ♡
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
でも、もう自分にウソをつかなくていいって…気持ちいいって素直に言えるようになったから……
パンパン
どう…ですか？
ちゃんと気持ちいいですかっ？
あぁ♡
はぁ♡
私の膣内でイってて♡
あぁ…最高だ恵理奈っ
今度は私がイかせてあげますからっ♡
パンパン

イックゥ!!
ビクッ
ビクッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ
ビュクッ
ビクッ
ドク
ドク
ゴポ
ゴポ
あぁ♡
おまんこっイクッ♡
まだイッちゃう♡
あぁっ♡
くぅっ、恵理奈ぁっ
もっと精子
搾り取ってくれぇっ

私…ほんとにこの人の
女になっちゃったんだ…♥
はぁ♡
はぁ♡

でも…

これが今の私の
幸せなのかもしれない…

何回か電話しても出てくれないから

カチッ

直接来てしまった…

彼女が今どんな気持ちなのか会えばわかるはずだ…

ドキ

ドキ

でも、もしこのまま会えなかったら……

誰か来たよ、元カレじゃない？最後に会ってきてもいいよ？

違います…きっと…

ギシ

ギシ

ギシ

ギシ

ギシ

んっ♡

はぁ♡

あっ♡

まだ気にしてるの？俺が伝えてきてあげようか？

だっだめですっ…行かないでっ…

そんな必死に抱きつかなくても…

分かってるよ、恵理奈が傷つくようなことはしないよ

はい…嬉しいです…♥

ぎゅ〜っ

フル

フル

恵理奈、引きずっててもつらいだけだろ？

わかってます…彼とは長く付き合っていたから時間がかかるだけです…だから…

いつからなんだろう
気付けなかった…

ただ忙しいだけだと
思っていた…

電話に出ないことが
多くなってて…

スッ

いつの間にか音信不通に
なってしまった…

何度か彼女の元へ訪れても一度も
会えなかったけど、いることはわかる…

でも、カーテンで閉めきられた部屋の中で
彼女は何をやっているのだろう…

ゾワ

ゾワ

お互い離れて会うことが少なくなっただけで
こんなことになるだろうか…

それでも彼女の気持ちが変わってしまったのは確かだ

他の誰かといる恵理奈なんて考えたくもないけど…
ダメだ、何もかも遅い…

僕はもう大切な彼女を失ってしまったのだから……

んっ♡
んっ♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡
パン
パン
パン
パン
パン
パン
ギッ
ギッ
ごめんなさい春樹君…
私の気持ちは変わってしまったの♥
この人に抱かれる幸せを
知ってしまったから…♥
あっ♡
は♡
はぁ♡
あっ♡
あっ♡
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
だからもう私のことは忘れてほしいの…
ブー
ブー
私も大好きだった春樹君のこと
忘れるようにしてもらうから……